



— 第66号 —  
 〒214-8565  
 川崎市多摩区西生田1-1-1  
 日本女子大学教育学科の会  
 電話 044 (952) 6870 (代)  
 FAX 044 (952) 6889  
 ホームページ  
<http://jwu-gakuen.net/>  
 メールアドレス  
[info@jwu-gakuen.net](mailto:info@jwu-gakuen.net)

### 第五十四回「大会」のお知らせ

日 時 平成二十七年五月二十三日(土)  
 十二時三十分～十五時三十分

#### 会 場

日本女子大学人間社会学部  
 A棟二階第一会議室(西生田キャンパス)

#### 大会日程

##### 第一部

総会 (十二時三十分～十三時)

- ・会長挨拶

- ・平成二十六年年度事業報告及び各部報告

- ・平成二十六年年度会計決算報告・監事報告

- ・役員改選・承認

- ・平成二十七年年度事業計画・予算審議

- ・その他

##### 第二部

第十九回「学縁の集い」  
 (十三時～十五時三十分)

#### 申し込み

準備の都合上、なるべく同封のハガキで五月八日(金)までにお申し込みください。  
 (申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

※卒業生の方は、西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。

### 「教育学科の会 第五十四回大会」のお誘い

会長 岩木 秀夫

今年も、お一人でも多くの卒業生と在校生の皆様のご参加を願ひ、ご案内を致します。

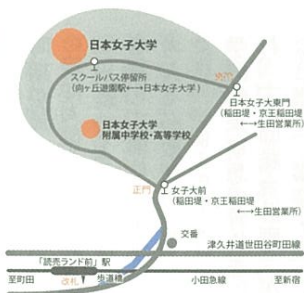
大会は第一部「総会」と第二部「学縁のつどい」で構成されています。総会は、この会の実績を共有し、これからの活動方針を決定する大事な機会です。

また、学縁の集いは在校生が卒業生の貴重な人生経験に接するまたとない機会です。平成二十六年度の第十八回では平成二十三年年度卒業の有志数名が駆けつけて下さり、在学中の学業と卒業後の初期キャリアについて、フロアの在校生からの質問にも答えながら話して下さいました。本会の今後の活動のあり方について大きな刺激だったと思います。第十九回に向けて、卒業生、在校生の方から活発な御提案を歓迎致します。

詳細が決まり次第、日本女子大学教育学科の会のホームページ (<http://jwu-gakuen.net>) にアップします。(ついでに)覧上れ。

#### 交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車 徒歩 15分
  - ・新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)
  - ・新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車 北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約 15分・無料)



#### ◆西生田スクールバス時刻表

2014年度の土曜日用です。  
 2015年度は変わる場合があります。  
 ホームページでご確認ください。

時	向ヶ丘遊園駅北口発	日本女子大学発
8	30 40 47	
9	06 17 47	25
10	10 27 41	05 20 50
11	15 40	20 40
12	00 15 45	07 30 40 57
13	00 15 40	20 30 45
14	00 30	10 40
15		00 30

#### ●京王線

『京王稲田堤』駅下車/  
 小田急バス(生田営業所行)約12分/  
 日本女子大東門または女子大前下車

#### ●JR南武線

『稲田堤』駅下車/  
 小田急バス(生田営業所行)約12分/  
 日本女子大東門または女子大前下車

### 幼少期の教育: Heckman 教授の講演紹介

教育学科専任講師 山下 絢

#### 提言

2014年度の教育改革の大きな特徴の一つは、幼児教育の無償化が実現に向けて議論の俎上に載っていることである。この契機の一つが、2000年にノーベル経済学賞を受賞されたJames J. Heckman教授(シカゴ大学)の研究成果である。そのHeckman教授が、2014年10月に来日され、東京大学、慶應義塾大学、経済産業研究所において、講演をされた。私の講義を受講してくれている学生にHeckman教授の来日を周知したところ、複数の学生が講演会に参加され、私も含めて多くの知的興奮を得た。その内容を一部紹介したい。

Heckman教授の主張の1つは、「Predistribution, not just redistribution」というものがある。この主張の要旨は、格差是正を目的としての再分配政策を単に行うのではなく、幼少期において、将来的な格差是正のために支援(教育)を講ずる必要性があるというものである。米国では、将来的な教育の収益率からみても、就学前教育が効率的であることが実証され、就学前教育の重要性が指摘されている。また、Heckman教授は、「Prevention, not just remediation」と主張されている。この主張では、経済的に恵まれない家庭に支援をする際には、就学後や高等教育における奨学金のような形だけではなく、就学前から継続的に支援を行うことが有用であることを指摘している。そして、これらの主張において重要視しているのが、非認知能力(やる気、集中力、自制心など)の形成である。この非認知能力が幼少期において発達しやすいことから、時期を逃さないことの重要性を説いている(ただし、三歳児神話を主張されているわけではない)。

以上、講演会の内容を一部紹介したが、関心のある方は講演場所のWebサイトを一読されたい。なお日本の非認知能力の形成や就学前教育の影響については、拙稿を参照されたい。(1)敷島千鶴・山下絢・赤林英夫(2012)「子どもの社会性・適応感と家庭背景」樋口美雄・他編『親子関係と家計行動のダイナミクス』慶應義塾大学出版(2)赤林英夫・敷島千鶴・山下絢(2013)「就学前教育・保育形態と学力・非認知能力」樋口美雄・他編『働き方と幸福感のダイナミクス』慶應義塾大学出版



## ホームカミンググレード シンポジウムの報告



### 人間社会学部と教育学科 —二人の元人間学部長が占う—

#### 目白移転後の将来

昨年十月十八日(土)講師に牧野暢男先生(人間社会学部名誉教授・元教育学科教授、教育学)片桐芳雄先生(人間社会学部名誉教授・元教育学科教授、教育史)をお招きして現教育学科長・田部俊充先生(臨席のもと、西生田でシンポジウムが開催された。「2021年度のキャンパス統合に向けて、今教育学科は大変な状況にある。お二人の元人間社会学部長からこれまでの経緯を伺う事で、目白移転後の教育学科のあるべき姿を考えるヒントを戴けると思う。」と、教育学科の会会長の若木先生の言葉で開会した。

**\*田部先生:**教育学科の現在置かれている状況はいろいろな流れの中で困難を極めている。その中で、牧野先生は学科のあり方を非常に早い時期から考えておられた。片桐先生は、地域連携というものを中心になさる一方で、今後の学部の将来

像を見据えた様々な構想を練られた。そして今、移転後の重要な鍵を握っているのが教育学科である。まず資格に関して、人間社会学部教育学科と家政学部児童学科で重複があり、これをどう解決していくか。次に、保育行政の高まりのなかで、保育士の養成課程を作らなければならぬという事もある。そういう大学全体の様々な課題がクローズアップされ、非常に大事な局面に入っている。本日、大学改革の中心になられたお二人をお呼びして、「今までの教育学科の財産を活かして、創立120周年以後の教育学科をどのように築き上げていくか」という事を是非学ばせて戴きたい。

**\*若木先生:**牧野先生は、人間社会学部創設から目白移転決議直前までの経過を、学部長として目撃された。その後、移転を巡る様々な経緯があり、学部が移転する事のみ公表されているという現状で、片桐先生は、様々な改革案が次々と現れては消えるその現場に学部長として立ち会われた。その両先生からのお話は非常に参考になると思われる。

**\*牧野先生:**私は、日本女子大学に24年間在籍し人間社会学部創設に関わったが、文学部から人間社会学部への移行の経緯を「人間研究第31号」に書いたもので、それに従って補足しながら述べる。①当時大学の地方分散政策が行われていて、工場等制限法により、東京23区内には大学の施設が認められなかった。他方、新しい進学欲求の高まりに対応し、他大学は少しずついろいろな学部を作り始め、私大には新設の学部がかなりできていた。目白地区は改革上厳しい制限を受けていた。「今後日女大を発展させていくためには、文学部と家政学部の2学部だけで、果たして21世紀に存続できていくのか。社会的意義を高めたいけるのか。」と

いう疑問を持っていた。そして、「これは、女性も大学で社会科学系などの分野で学び、卒業後社会的に有為な存在として世に出るならば、大学の存在意義がより高まるのではないか」と考えていた。

②当時大学も発展を図るべくして図りえない課題を抱えていた。一つは、家政学部が大学院博士課程を設置したいという意向があつたが、理学系の分離・独立が前提として避けられない課題であつた。③もし拡充を考へるなら、18歳人口の急増時期が最大の好機で、その時を逃すとその後人口が減少に転じ、時期を失する。

④川崎市より緑地指定され、資産価値を減らす前に西生田校地の有効利用を考へる必要があつた。このような事情により、1986年9月の学長提案で、全学的将来構想の骨格を固める方向が示され、「学園総合計画」が生まれた。様々な会議で、審議・検討が行われ、翌年一学部を西生田に新設する方針が承認された。いろいろな構想が練られたが、社会科学系の充実が成瀬先生の構想にあつた。社会科学系の志願者が増加傾向にある事が委員に意識されていた。複数の学科を西生田に移す事で新学部を作る方向に傾いて行った。その後、五学科編成に絞られ、現在の人間社会学部に至っている。教育学科は、大学の発展に協力することで結果として教育学科自体も発展できなければならないし、協力するためには、学部創設後に学科内容の充実が確約されねばならない。そこで、教育学科の専任教員を9名確保する、博士課程の存続、資格が現行どおり取れる事、施設の充実、生涯学習センターの設置の五つの条件を示し、全て受け入れられた。

その後、規制をかけていた法が廃止され、進学者以上に大学が増え(教員養成す大学や学部も随増え)、学生の学力低下が指摘されるようになる一方、都心回帰が始まった。もともと制限があつたため移転したのであり、より良い学生獲得のためにもより有利な条件を整えるべきであり、大学を辞する前から目白移転を考えていた。

**\*片桐先生:**2007年の4月から4年間学部長を務めた。その頃キャンパスは都心回帰という流れと共に、18歳人口の減少で入学者獲得が困難になると予想された。2006年3月の人間社会学部教授会で、人間社会学部を目白に統合すべきであるとの決議がなされた。この重要な決定により、人間社会学部移転促進学部改革委員会が設置された。これにより、2007年2月9日に連合教授会が開かれ、これは非常に重要な事だから決議には3分の2以上の賛成が必要という事になった。その結果3分の2には届かなかったが、移転案が圧倒的過半数を得た。学部長になる直前の事で、目白移転を可能な限り実現するのが私の使命と考えた。その時の学長は後藤先生で、人間社会学部の発展に大変ご助力を戴いた。学長として2期目になり、「他大学はほとんど改革をやっている。都心回帰で他大学が続々と戻ってきているのに、日女大が何もせずにいるのはどうか?」という強い危機感をお持ちで、「人間社会学部が、将来を憂い3分の2以上の教員が目白に行きたいという。連合教授会で3分の2に満たず否決されたが、過半数の人が一体化に賛成だとするのだから、無視せず何とか改革をして行けないか?」と考えられた。食堂のメニュー一つ一つも差が歴然とある。日女祭も目白と一緒にやってやればより賑やかで楽しいものができる。つまり一体化は目白の学生にとっても有意義である。「格差は正と二体化による総合力の強化、このためにキャンパス一体化すべきだ。」と機会あるごとに強調



し、少しずつ理解ある人が増えていった。また、何人かで「人間社会学部の状況と今後の展望」を理事の先生方にご説明に伺った。その他、相当な負債を抱えている上での資金面の問題があったので、様々な改革案を練った。そのうち、所信表明で「キャンパスの一体化を含めた、大学総合力の重要性」を仰っていた蟻川先生が当選され、移転一体化が動き始めた。2010年3月の理事会で、「大学改革の方向性について」という、ビジョン120の原型となる理事会決定を行った。これは、先ず第1に目白地区において学部大学院の再編を図る、人間社会学部全ての学部大学院を目白キャンパスに集結するという事で、それに基づいて本改革を本学120周年記念事業として位置付けるものであった。ここで私が非常に怖れているのは、教育学科と児童学科の関係である。例えば、鎌倉女子大学は児童学科の定員170人・教育学科の定員80人で、倍率は児童学科3〜4倍、教育学科1・7倍である。一般的に、教育学科と児童学科はそういう関係である。聖徳大学は教員養成を熱心に行っていて、以前は教育学科と児童学科があったが、今教育学科はなくなり、児童学科の「教員養成コース」になった。東京家政大学においても、同様の関係である。本学の児童学科も間もなく保育士養成を行うことになるだろう。そして教育学科は、小学校・中学校を中心にして行くとなった時、他大学との違いを示すことができないと存続が危ぶまれる。

**\*岩木先生：**キャンパス一体化を前提として、現在のカリキュラム構成では未来が危ういというのが重要な論点である。その論点を巡って議論して戴きたい。

**\*田部先生：**児童、教育、心理が一緒になるプランは、文科省の課程認定が最近益々厳格化し、一体化しても認定が通り

そうもない。教育学科は今やっている事を更に拡充して行く方が良いと思う。

**\*岩木先生：**牧野先生は、「人間研究第31号」の中で教育・児童・心理と分かれていなかった目白時代に比べると、人間社会学部教育学科は、質的にカリキュラムが向上したと評価されていますが、その観点からいかかでしょうか。

**\*牧野先生：**大学全体からみた場合、教職に関連した中核的な部分を教育学科の中に残すべきである。その上で児童・心理とどう連携体制をとるかが重要である。

**\*片桐先生：**教員養成を中核に専門性を高めながら確固としたものにする。その上で成瀬先生の建学の理念から（教員養成に力を入れるだけでなく）人間社会学部・教育学科に相応しい内容の教育学科にして行くという積極的な姿勢を望む。

**\*岩木先生：**課程認定だけを考えるのではなく、魅力・集客力ある哲学をきちんと考えることが大切という事ですね。

**\*田部先生：**しかし、状況は更に厳しくなり①何人資格を出して何人教員になったのか公表されるようになるので、実際に教員になる意志の人を優先しなくてはならなくなる。②専任教員は、教職を出せる実績も求められる。③卒業後、教員として即戦力になる学生を育てなければならぬ。④伝統を大事にしなから、博士課程の学生達にきちんと研究してもらいたい。：そういう中で今までのものを守るだけで大変である事をご理解願いたい。

**\*岩木先生：**ありがとうございます。

その折々の状況に際し、全身全霊で学科の存続・発展に「尽力された、牧野先生・片桐先生、現在も発展させてくださっている先生方に、心から感謝申し上げます。」

【総務部27回生 渡邊 明美】

### 懇話会の報告

#### 「私の歩んできた道」

元祖「金八先生」が語る  
教育のこと、宮沢賢治のこと



二〇一四年十一月二十九日(土) 目白キャンパスに、中学校教師から都教組の委員長、全労連委員長、看護専門学校校長などを歴任された、宮沢賢治の研究者としても活躍の三上満氏をお迎えして懇話会を行いました。体調を崩されてから初めてのご講演と伺いましたが、気さくなお人柄とユーモア溢れる「まんさん」の語り口に引き込まれ、あっという間の二時間でした。二十名が参加され、講演後も心温まるご意見やご質問の交流があり、充実したひとときでした。一部抜粋してお伝えします。

#### \*賢治と日本女子大

私は、先日難司ヶ谷に成瀬仁蔵先生のお墓参りに参りました。私が研究している宮沢賢治は現在人々の敬愛的になっているようです。東日本大震災後の混乱な時代に賢治の精神は今に生きている、一つの大きな柱だという人もいます。

しかし賢治には父との信仰や家業、進路などの確執や争いがあり、狂信的に法華經にのめり込んだ時代がありました。親友に何十通もの手紙を書いて法華經への入信を迫り、知人にも脅しや泣きの手を使ったりして、改宗を誘いました。後輩への手紙には「間違つた宗教を信じれば最終的には獣の権力にまで達してしまう」とまで述べています。

そのような苦悩の時代に妹のトシが日本女子大で学んでいました。トシを通して、成瀬仁蔵の「世界の根本生命である一つものへの信仰によって世界は平和にな

る」という思想が賢治に伝わり、広い人間愛の賢治世界へとつながっていったのではないのでしょうか。日本女子大は賢治世界のふるさとと言えるかもしれません。トシの後輩であるみな様の前でお話するのを大変嬉しく思います。

#### \*どのようにして教師になったか

賢治にも自分を見出すまでの苦悩の四年間があったように私にも悩み多き青春時代がありました。私の入った東大には、バツハの曲の細かいところの違いまで鋭く指摘できる友人や、寝ころびながらドイツ語で書かれた関数の本を読んだりする山岳部の仲間がいて、劣等感にさいなまれました。また人並みに失恋をし、挫折感を味わいました。自分の立ち位置を見出すために悩んでいました。

あるとき酔って帰った駒場の寮のトイレでドイツ語で書かれた落書きを発見しました。それは「私は他人の近くにいたい。人々の中の一人でいたい」という意味でした。その言葉に衝撃が走りました。その言葉に出会えて私は幸せでした。私は教師になろうと決心しました。官僚になる道もあつたかもしれませんが今思うとその選択は大正解だっただけだと思います。

卒論は「宮沢賢治における労働と教育」を研究し、一九五五年四月に社会学科の教師として文京区立第一中学校に赴任しました。

#### \*私の教師発展途 上史

しかし教師になるということは生易しいことではありません。私が受け持った一年五組には様々な環境の生徒が六二名いました。隣のクラスはピシッとしているのに、私のクラスはなかなかうまくいかなくて、同僚に「また五組に行くのか」とため息をつかれたりしていました。「私の5・20事件」と名付けた思い出があります。



前日は高尾山への遠足で、私は子どもたちと仲良くなれた満足感に浸っていました。反省会と銘打ってたくさん酔い、翌日は二日酔いの状態でした。私のクラスで「東南アジアの稲作」という教材の授業を行いました。おもしろく授業を進めることができました。ただ、最後の方で生徒達の興味を引きそうな場面があり、楽しい笑い声が止まらなくなりました。ところが授業の終了のベルが鳴り、生徒たちはノートや教科書を閉じ終わる用意をしています。目の前の横田君が「先生もう終わり」と言いました。私はそれを聞いて頭に血が上り、「やめるか続けるかは先生の決めることだ。おまえの指図なんか受けない!この続きは放課後やるから覚えとけ!」と啖呵を切った職員室に帰ってしまいました。このあとも情けない思いでいっぱいになり何としても謝らなくてはならないと思ひ、いろいろな先生に相談しました。ある先生が「まんさん、それは辛いだろう。でも生徒は気にしていないよ。長い一日のほんの二コマのことを重大に思っちゃいないよ。」と励ましてくれました。

放課後教室に行くこと喧嘩のなかで横田君が「先生今朝の続きをやらないの?」と言ってみんなに授業の用意の呼びかけをしてくれました。その時私は、「今朝はすまなかった。これからはいい先生になる。いろいろ教えてくれ。」と謝りました。もし私がずっとふてくされて生徒のせいにしていたら、きっと教師にはなれなかったでしょう。「最良のスタート」であったのかも知れません。

生徒たちはいろいろな教えてくれました。先生が真剣に説教し、それを生徒たちがしっかりと聞いているクラスを廊下で参観しながら、「先生っていうのはああでなくちゃ。」とアドバイスしてくれました。また、「先生がしっかりとしないと、困るのはぼくたちの将来なんだ。」とはつばをかけたられました。当時私には子どもへの要求の一貫性がなく、生身で生徒に飛び込んでいく人間力が足りなかったと思います。そこで私は教師の力を育てるために先輩をつかまえては飲みに行き、いろいろなことを教えてもらいました。生きた研究会でした。あるとき子どもたちが書いてくれた文章に「まんさんは、陽気で、大事なことは真剣で、ありふれた普通の人間だ」というものがありました。ものの見事に教師の三条件を言い当てていますね。そして根底には人間への信頼がなければなりません。

花巻農学校の賢治先生も三条件に当てはまる先生でした。ユニークな発想でグループ討論をさせたり、自ら名付けた「イギリス海岸」(北上川の川床が浮き出ているところ)へ古代生物の跡の探索に出かけたり、肥桶と天秤棒を担いで生徒と歩いたりしました。「アルパカ」と「実際問題」というあだ名がついていたそうです。アルパカは賢治の風貌から、また「実際問題」は賢治の口癖だったのでしょう。

賢治先生の教育は、一九四七年の教育基本法の二条の教育の指針1.学問の自由を尊重し2.実生活に即した3.自発的精神を養い4.自他の敬愛と協力による教育に近いものだと思います。私の指針にもなっています。

### \*子どもとは

しかし、現在の教育は管理、競争、統制が行われ、その教育基本法の指針とはかけ離れたものになっていないでしょうか。本来子どもは白黒まだらでジグザグ発展途上人であると思います。「あさがし」ではなく、「いいとこさがし」をするのが教育の原点であるのに、逆になってはいませんか。

私は十五年前に東京都知事選挙に立

候補をしました。大勢の教え子が応援演説してくれましたが、「先生に教えてもらったことはほとんど忘れてしまったが、歴史のテストで石川啄木と書くところが石川五右衛門と書いたら、石川に半丸をくれて点数も半分くれたのがとても嬉しかった。」と言ってくれた子がいました。私は、教育ってそんなものかなと思いました。丸はつけられなくても、半丸や三角はつけられますね。何かいいところははないかなと探すが教育なのではないでしょうか。

子どもが大好きな三点セットがあります。1.「めあて」を持って頑張つて、2.それができた喜び、そして一番大切なことが3.「よくやったね」とほめられることです。

### \*賢治の作品が語っていること

賢治の作品はいろいろなことを語っています。初期の童話「くもとなめくじ」と「たぬき」では大きくなれと先生に言われたくもとなめくじとたぬきが他を蹴落とそうと頑張つて大きくなろうとし、最後には「地獄行きのマラソン競争」になってしまします。賢治はそういうことはやめようと言っています。また「セロ弾きのゴーシュ」からは「だめなものはない」という賢治のメッセージが伝わっています。

賢治の作品は教育だけではなく自然、環境、宗教、平和など現在に生きる私たちに大切なものを示唆してくれています。

### アンケートより

先生のお話から教育、教師にとつて大切なものを教えていただきましたが、それと同時に人間として何を自分の核として生きていくか考えさせられました。

【文化部 24 回生 赤塚国子】

## 退任に寄せて



真橋 美智子教授

### \*日本女子大学に勤めてどうでしたか。

日本女子大学に勤めて40年以上になりますので、一言では言い表せないのですが、勤務の前半は、目白キャンパスにありました。研究所では主に女子教育の歴史や現状について研究し、『成瀬仁蔵著作集』全3巻の刊行、本学の卒業生調査や女子の生涯学習講座にもかかりました。研究所のメンバーに本学の女性教員も加わられており、女性問題などで刺激的な議論が交わされたことを思い出します。そのような環境の中で、いろいろな意味で成長できたように思います。

後半の20年は西生田の教育学科に勤務しました。大学までの急坂が大変でしたが、四季折々の自然を感じられ、癒されました。でも何よりも講義やゼミを通じて多くの学生のみなさんと接することができたことがよかったです。たくさん刺激とエネルギーをもらいました。二つの異なる職場、環境の中でいろいろな人と出会い、学ぶことができ幸せでした。

### \*副学長になって何か変わりましたか。

大学生活最後の2年間、副学長になることは全く予想しなかったことで、今でも信じられない気持ちです。そのことで生活のリズムが大きく変わりました。この2年間、講義などの授業時間が減り、反面会議が増え、様々なことへの対応が求められるようになりました。会議は目



白で開かれることが多いので、西生田の研究室にいる時間が少なくなりました。また学園全体にかかわる重要な会議や決定の場に加わることになり、大きな責任を感じています。会議や行事などは簡単には休めないのが、体調管理にはこれまでに以上を気をつけています。

**\*先生にとって日本女子大学で印象深かったことは何ですか。**

西生田の豊かな自然が印象深いです。桜や楓だけでなく、スミレ、ヤマユリ、ホタルブクロなどの花を通して季節ごとの良さを感じることができました。一度ですが、タヌキとの出会いもあり、豊かな自然の中で過ごしていることを実感しました。

もう一つは東日本大震災の時のことです。その時目白で会議をしていたのですが、交通機関が全面的にストップし、帰宅できなくなりました。当時は学科長だったのですが、しばらくは大学に行くこともできず、学生の安否確認など様々な対応をしなければならず、大変でした。卒業式も中止になり、謝恩会の準備をしていたゼミ生に後日研究室で苦労様会をしました。その時の様々なことは今でも強く印象に残っています。

**\*教員生活の中で大切にされてきたことは何ですか。**

できるだけ学生一人ひとりの関心や個性を大切に指導することです。とくに卒論などではあくまでも学生の興味・関心を尊重し、完成まで励まし指導するように心がけました。また授業では女性教育、家庭教育を担当したこともあり、将来の生き方をよく考えること、家庭を大切にしながら経済的にも自立した生き方をしてほしいと伝えてきました。

**\*学生へのメッセージをお願いします。**

本学は女性の自立を重視して創立された歴史ある大学で、現在も生涯学習やキャリア支援に積極的に取り組んでいます。学生のみなさんには女性だからという枠にとらわれず、将来の目標を見つけ、その実現を目指してほしいと思います。自分にあったペース、方法、それぞれの能力を社会で発揮してほしいと思います。



澤本 和子教授

**\*日本女子大学で印象に残っていることを教えてください。**

民間企業に就職する人と教員になる人がいて就職先の幅が広く、学生さんは迷うこともありませんが自由を選ぶことができ、ひらけていますね。また、先生方は多様な分野で研究している方がいて様々な分野のお話をうかがうことができました。私も自分のペースで好きなことをやりたい人なので、その雰囲気は合っていました。由のびのびとさせていただきました。

学生さんは、柔らかさを備えた真面目さがあると思います。これは就職活動でのアピールポイントになるでしょう。一方で、とてもいい子なのでストレスの多い状態の時にどのようにしてそれを乗り越えるか、殻を破るかという点は課題かもしれません。

**\*教員生活で大切にしていたことを教えてください。**

私は話すことが好きなのですが、自分が話しすぎず相手の話を聴くということ。これは小学校の教員時代から気をつけていることです。小学校では、一生懸命教材研究をした教材はつい話しすぎてしまうのですが、先生が話すことよりも子どもが話すことをしっかり聴きとること、そしてそれを学びに生かすことが大事だと思っています。たくさん勉強すると話したくなってしまふけれどね。話を聞くことのできる先生になるよう努力はしてきましたつもりです。

また、教員は人と関わる職業なので人間関係にこだわりを持つ必要がありますが、とらわれすぎて頭がいっぱいになってしまふと行き詰まり、視野が狭くなってしまうため、自然に目を向けたら、趣味の世界を深め、楽しんでいたり人間としての幅を持つことが教師らしく生きていく上で大切なことだと思います。学生さんの場合も同様で、悩んだ時に別のことに目を向けて自分をリフレッシュさせるのと良いとアドバイスしたこともありました。私は新緑の季節が好きですが、西生田は自然環境が良く、季節の変わり目に自然の様子に静かに浸ることができるとも良い環境だと思います。桜や紅葉の時期も素晴らしいですね。桜や紅葉や歌舞伎などを観に行きますが、こちらは人間が作った素晴らしい世界で、西生田キャンパスの環境は自然が恵んでくれた世界です。その両方に身をおいて交流することが大事だと思います。

**\*なぜ国語教育を志したのですか。**

一つは、自分が好きだった教科が国語と体育だった、ということがあります。実は、学部生だった時は国語ではなく、体育を専門に勉強していました。体育と

言ってもいわゆるスポーツではなく、野外教育を中心として、高校生と一緒にハイキングコースを開発したり、テントを張ったりしました。当時、読売新聞が主催していた読売キャンプというグループがあり、そこで自分たちも学生ボランティアとして参加していました。

本当はそういった活動が好きだったので、仕事も野外教育関係の仕事に就きたかったのですが、その頃はまだ、日本では職業としてあまり確立していなかったこともあり、その道は諦めました。そうして自然と、もう一つの教育学を学びたいという思いから、一年東大で勉強した後、お茶の水女子大学の大学院に進み、国語教育を専攻するようになりました。

**\*授業研究は小学校で教えていたことがきっかけで始めたのですか。**

当時、周りの先生はベテランの人たちばかりだったため授業も上手く、自分の授業が下手だったことに悩んでいました。先輩の先生方に質問すれば教えて下さり、いつでも質の高い授業を見せて頂くことが出来ましたが、見たり聞いたりすれば自分の授業が上手く出来るものでもありません。ですから、同級生の若い先生と一緒に、今のお茶の水女子大学附属小学校が出していた「児童教育」という研究誌があったので、それを読む読書会を開き、勉強しました。

しかし、これも読めば出来るようになるわけでもなく悩んでいた頃に、ちょうど国語の研究会に誘って頂き、いつの間にか今日まで授業研究を本気でやらざるをえない所まで来ました。

**\*最後に学生たちにメッセージをお願いします。**

もし心配することがあるとすれば、少し良い子すぎてしまふところが心配



です。一生良い子で居続けるとい  
は難しいので、どういう時に良い子で  
なくなるのか、ということについては、  
ぜひ時間がある時に考えてみると良い  
と思います。

思いがけなく良い子でいらなくなる  
時が来た時に、それでも無理に良い子で  
いると、本当の自分を押し殺してしま  
います。日本女子大学の学生さん、特に教  
育学科の子は頑張って良い子をしている  
こともあるので、時には殻を破っていい  
と思いますし、これからの時代は戦う強  
さも必要でしょう。

最後に言いたいとすれば、私は日本女  
子大学に来ることが出来て、本当に幸せ  
だった、ということ。良い先生方に  
出会え、事務の方とも仲良くして頂き、  
何しろ学生さんは最高でした。穏やかで  
温かい、一人ひとりが自分の居場所とし  
て、ここを考えることが出来ているとこ  
ろが好きです。特に、周りや様子を見な  
がら、自分を上手く調整出来るというバ  
ランス感覚のある人が多い、というの  
良いと思います。学級経営と同じで、穏  
やかな子がのびのびと意見が言えると、  
上手くクラスがまわります。そのように、  
周りのことも気遣いながらも穏やかに過  
ごすことが出来る子を中心として、他の  
子も影響されながらもっとのびのびと出  
来ている、そういう集団であるように感  
じます。日本女子大学で過ごした時間は、  
私が学生さんたちに与えてもらった幸せ  
な時間でした。

**\*ありがとうございました。澤本先生に  
は一年生の頃から様々なことをご教授  
頂きました。また今回こうしてお話を  
伺えたことを大変幸せに思います。**

【学生委員3年 齋藤香織・増田夏織】

## 先輩にインタビュー



今回は、二〇〇九  
年三月に教育学科を  
卒業されました、高  
山恵梨さんに、メール  
で取材させていただきました。

高山さんは岩木先生のゼミに所属  
し、生涯学習概論授業を機に興味を寄  
せ始めた社会貢献やNPOの活動につ  
いて学び、専業主婦のNPO活動を  
テーマとして論文を書かれたそうです。  
卒業後、「積水化学工業(株) 住宅  
カンパニーの住宅営業部」に勤務し、  
新築住宅の販促企画、カタログ・ツ  
ル類の制作などを約2年間担当され、  
新卒からの4年間は、住宅展示場でハ  
ウジングアドバイザー(営業事務)と  
して、接客・図面作成・事務対応など  
の仕事をされていきました。  
現職はもうすぐ退職し、今後は社会  
福祉関係のNPOスタッフとして働い  
ていかれるそうです。

### ★学生時代のように過ごされてきましたか？

やりたいことをやりながら、気ままに過  
していたように思います。

埼玉から生田まで片道約2時間の通学、  
日曜日以外のほぼ毎日1限から授業と時  
間的拘束もありましたが、それ以外の時間  
は、アルバイト、サークル、気になる場所  
へ出かけてみたり…。最低限のやることは  
やって、あとは気の向くままに…という感じ  
ですかね。

### ★学生時代にしておくと良いと思うことは ありますか？

『やりたい』と思ったことは、可能な限り  
やります。

### 実行する！

社会人になって働き始めると、どうして  
も時間的拘束が大きくなります。例えば、  
海外旅行。仕事をしていたら長期休暇もそ  
う多くは取れませんし、最盛期の旅行代金  
は割高です。学生時代なら、自由なときに  
自由な期間で設定が出来ると、旅行は費用  
もかかりますが、行ったからこそ得られるも  
の価値には代えられません。この両親が許  
してくださるのなら、一時的に資金援助を  
受けてでも実行する価値はあると思います。  
『ユー・ジャーランドでファームステイしてみ  
たい』迷った挙句に実行しなかったこの想い、  
実は未だに引きずっています…。

### ★なぜ今の就職先に決められたのですか？

『この会社で、この人たちと一緒に、この仕  
事がしたい』と思えたから。  
家族を支える仕事があった、そんな思い  
でハウスメーカー中心に就職活動をしてい  
ました。その中で出会ったセキスイハイム  
同業他社の中でも群を抜いてアットホームな  
雰囲気や居心地がよく、なおかつハウジン  
グアドバイザーの仕事をする自分の姿がき  
ちんと描くことができたからです。入社後も  
この感覚が外れることがなく、まわりの方に  
温かく見守られながら、のびのび仕事をさ  
せて頂きました。

### ★仕事をしていた、やりがいを感じたこと は何ですか？

お客様やまわりの人から、『ありがとう』  
を頂けたこと。

営業職ではないので、自分の担当した  
業務について、目に見えた成果が出る機会  
が少ないです。その代わりではないですが、  
ちよつとした一瞬や一言が本当に嬉しいもの  
で、やりがいにつながります。

### ★仕事をしていた、大変だなと感じたこと は何ですか？

『やりたい』と思つたことは、可能な限り  
やります。

自分に合わない働き方をすること。

1日の1/3、週の5/7を費やす仕事  
の時間。それがもし苦しいものだとしたら、  
それはそれは辛い毎日だと思います。入社  
5年目で本社に向向し、郊外の住宅展示  
場からビルばかりのオフィス街で働く日々  
に。任される業務は充実したものであつても、  
のんびり屋の私にとって少し息苦しい環境で  
した。

### ★なぜ、NPOにて働くことにされたので すか？

大きく2つあります。  
(1) 生み出された利益を、会社や組織にでは  
なく、社会に還元できる仕事があったか  
ら。

いい意味でもわるい意味でもバカ正直なの  
で、都合ばかりの利益追求に矛盾を感じ  
てならないのです。  
(2) 「NPOで働きたい」という夢を忘れ  
られなかったから。

学生時代からNPOでのボランティア、  
インターンを経験。新卒での入職は見送  
り、社会人ボランティアとして関わり続  
けるも、上記の憧れがいつも心の片隅に  
残っていたのだと思います。

### ★生活の中で一番大切にされていることは 何ですか？

体調管理。  
体調が悪いと、何をしても力が出ませ  
ん。『がんばるけれど、無理はしない』私は  
これを大切にしています。特に、食生活と  
睡眠でしょうか？「なんだか体調がおかし  
いゾ…?」と思つたら、速攻帰宅し、食べ  
て寝ます。(笑)

### ★学生の皆さんにメッセージをお願い致し ます。

自分の想いに正直に。決めてあきらめな  
いで。



人生に正解なんてありません。また、誰も決めてくれません。自分自身で考えて、悩んで、見つけていく、決めていくしかありません。

私は今でも悩んでいます。テストの方がよっぽど簡単だと、いつも思います。(笑) 失敗することも、回り道も寄り道も、最終的には自分の糧になる。最近改めてこのことを強く感じます。だからこそ私自身も、いつまでも憧れているのではなく、憧れをかたちにしていくとようやく決心することが出来ました。

皆さんのまわりには、素敵な方がたくさんいらっしゃるはず。悩んだり困ったときには遠慮なくその人たちの力を借りて、自分の力に代えていてほしいと思います。でも、無理は禁物。笑顔で過ごせる心のゆとりをいつもどこかに持ちながら、充実した日々を過ごしてくださいね。

感想

今回高山さんにインタビューをさせていただき、一番印象的であったことが、夢と意志を持って仕事をするこの大切さです。学生時代からNPOでのインターシップやボランティア活動を積極的にしていってくださったことが、社会に出て高山さんの胸に残っていたというところが伝わってきました。興味のあることや夢に対して積極的に活動をしていくことは、今後、社会に出たときにも影響していくのだということを感じました。これから社会に出て働いていく中で、自分と仕事の間に生まれる葛藤にどのように対処していけばよいか考えながらも、夢と意志をしっかりとおくことで自分なりの道を歩むことに繋がるように思いました。

最後に、忙しい中、突然の取材に快く応じてくださった高山さんに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【学生委員3年 秋山光 岡村鈴奈】



会員の広場

今回は、返信ハガキの近況欄を拝見し、もう少し詳しくお話を伺いたく、33回生の荒木さんに原稿をお願いしました。



33回生 荒木 典子

大学を出て、東京都の公立小学校に奉職いたしました。切迫流産のため二人目の子どもの出産時に退職いたしました。その後、専業主婦をやり、一番下の娘の小学校入学を機に大学から非常勤講師の職を紹介していただきました。それから15年都内の小学校、中学校で講師を続けさせていただいております。非常勤ということとは不安定ではありませんが、一方で「小学校」「中学校」どちらにも赴くことができません。最近では夜間中学校や通信制中学校、特別支援学校の病院訪問部にも関わらせていただきました。

どこにいても、そこには学びたい人たちがいて、共に学び、発見することの喜びがあふれています。私自身知らないこと、教えるまでに準備しなければならぬことが次から次に出てきて、毎日勉強です。新鮮で楽しい日々です。現在は学校の仕事の後、外国をルーツとする小中学生などの学習支援のボランティアに参加させていただいています。震災後の東北に一年間通ったボランティアで「できる人が、できるときに、できることを」するのがボランティアであると教わりました。今自分ができることを無理せず、精一杯やっています。

送っていたいただいた原稿を拝読し、たぶん読者の皆様ももっと詳しくお聞きになりたいのではと思います、「教えていただける範囲で結構です」と質問をさせていただきました。

☆何故、産休ではなく退職を選択されたのですか？

長女の時は産休をとりました。実家に預けながら勤めておりましたが、次の子がお腹にいるとき2か月の時でしたが、マラソン大会に出て切迫流産になりました。母子ともに危険な状態でした。そのころ夫が単身赴任になり、どうにか無事に生まれてくれた二人目の子と長女と向かい合うことが自分にとって重要だと考えました。教師はたくさんいるけれど、母親は自分しかいない。ここはひとつ専業主婦をやろうと決めました。

また、復職したときにこのことは絶対にプラスになる、と疑いなく思いました。根拠のない復職への自信はなんなのか。今考えるところから、恩師の「自分の子どもを育てることも立派な教育活動です」という

言葉は今考えても専業主婦への決断に影響があったのだと思います。

☆非常勤講師についてももう少し教えてください。

退職後10年。大学から紹介されたのは中学校社会科の非常勤講師でした。私は他大学で「中高社会」の免許は取得しており、「小学校全科」を取るために学士編入で日本女子大に came ました。中学校の教壇に上がるのは実習以来でしたが、不思議と躊躇なくはじめられました。

その頃は先生の数が少なかったのでしょうか、一つの学校に多くの時間数があり、先生方と同じような授業数だったと思います。ですから、学校間の移動もあまりありませんでした。それから延べ40校以上回り、小学校も夜間中学校も通信制中学校も現在の特別支援学校も経験させていただきました。非常勤とはいえ、一つの学校に5年、10年ということもあります。10年くらい前から、採用試験と採用試験の間を非常勤で過ごす先生が増えってきましたように思います。学校は「教育法規」「教育方法」などのまたとない学習の場です。学校によっては管理職の先生が積極的に面接や論文の指導をしてくださるところもあります。一方で、生徒にとつては正規の先生も非常勤の先生も同じ先生です。授業の内容から成績付けなどの仕事量は半端ではありません。自分の試験勉強ができないと、悩める講師もたくさんいました。現在は何年かの講師経験が採用試験に生きるようです。

私は採用試験も考えましたが、非常勤講師の仕事にも意味を感じています。

上記のように前途洋々たる教師の卵の育成の場であると同時に、「非常勤講師を頼まざるを得ない事情」が各学校にはあります。社会科の教師が足りない。教員が急病になり埋めなくてはならない。新採



の指導につく時間を補ってほしいなど。  
 そんな時、新採以前の講師では元も子もありません。急に倒れられた先生のクラスを急ぎよ担当する場合は短い時間で引継ぎをし、授業のレベルをおとさずに戻れるのを待たなくてはならないのです。  
 そんな事を考えた場合、自分でできることはこうした「プロフェッショナルな非常勤講師」なのではないかと思っただけです。

偉そうなことを書きましたが、幸い今日まで仕事をただで、継続がないまでもご紹介いただけてこまごまやってもらいました。またこの年で新しい職場に行ける幸せをかみしめていると同時に毎回「明日はない非常勤」として気を引き締めています。

最近では「非常勤教諭」という定年後の再雇用の先生が増えています。2月3月がその先生方の異動期間なので、3月31日に「来年度お願いしていました、その話はなくなりまして」ということが多くなりました。かなり辛いですが、仕方ありませんね。

☆震災後のボランティアでは、どんなことをなさったのですか。

3・11の直後、中学三年生にどんなことを考えたか書かせました。

「自分は揺れた時、その後授業がなくなり帰ったことなど。非日常がおもしろくてわくわくした。しかし、帰宅して東北の状態をみて、『わくわくした自分なんか死んでしまえ』と思った。」

という文を読み、このことから生徒が学ぶことの重要さを感じました。そこで5月から実際に行くことで自分がなすべきこと、伝えるべきことがわかるかと思ひ、気仙沼のボランティアセンターを調べて行きました。交通手段もよくわからないまま飛び込みました。

そのころの気仙沼はまだまだがれきの山

で、がれきの間の魚が腐り異臭がきつくそれでも現地の方々やたくさんボランティアががれきと戦っていました。もう前しか進まないぞ！という気持ちも伝わってききました。それから毎月一回気仙沼ボランティアセンターに通い、さまざまなお手伝いをさせていただきました。がれき処理の間に余震があり海がゴツと鳴ることもありました。避難所で一緒に蠟燭作りや草むしりをしたり、漂流物や写真の洗浄などもやらせていただきました。たまたま住んでいた所に地震や津波がきたというだけ：などたくさんさんのことを考えました。2012年には福島島の南相馬に行くことが増えました。若い人は難しいかもしれないので、ちよつと頑張ったのですが、こちらはほとんど手が付いておらず今でも大変な状態です。

今は学習支援のボランティアを夜、都内でもやっております。夜行バスに乗ることができないため、南相馬のボランティアセンターに必要な物資を送っています。これも一つのボランティアの形だと考えます。

☆学習支援のボランティアはどんなことをするのですか？また国籍はどの子どもが多いですか？

ボランティアですが、区内の小中学生が夜集まってそれぞれが持ってきた教材で、宿題をみたり試験勉強と一緒にやったりします。中国の方が一番多いようですが、ベトナムや韓国フィリピンの方がその次に多く見られます。

日本語を必死に勉強している日本に来たばかりの方、日本語は大体大丈夫だけれど、教科学習となると難しいという方などです。経済的、家庭的に教育になかなか目を向けられていない子どもが対象です。めざすところは公立高校合格です。(家庭的には、家庭内に学習環境が整っていない、例えばDVなどです)

「学びたい」「わかりたい」「試験勉強をきちんとしたい」という気持ちが伝わってきます。

クロスワードパズル

太線枠のアルファベットを組み合わせてできる4文字の英単語は？

ヒント！

下手な英語の発音よりも「掘った芋いじったな」の方が通じるというのは本当でしょうか!?

<ヨコのカギ>

- 1. Big ○○○○○とは、ニューヨークの愛称。
- 4. パーティーのホストと○○○○○。
- 5. ○○レコードには、ジャケット買いがありました。
- 6. ○○とは、企業による投資家に対する広報活動のこと。

<タテのカギ>

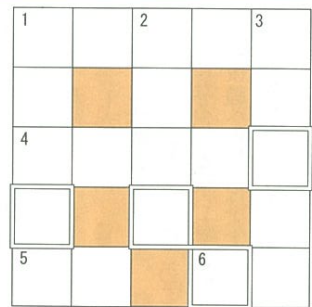
- 1. 神の使い、天の使いとされる存在の総称。
- 2. 詩を英語では○○○○○。
- 3. パソコンでよく使うのは、大きな○○○○○キー。

◆解答を同封のハガキに書いて送ってください  
 正解者 10 名に図書カードを贈呈します。  
 (正解者多数の場合は抽選)

◆前回の正解は<スマイル> でした  
 たくさんのご応募ありがとうございました。

[当選者発表] (敬称略・数字は回生)

- 竹林紗代子 (14) 鳥居登志子 (16) 島野 正子 (16)
- 永原美津枝 (18) 蓮井 加代 (18) 渡部 泉 (24)
- 渡邊 明美 (27) 長谷川貞子 (30) 清水 祈 (31) 竹内さち子 (33)



今回はすべてアルファベットです!!  
 Let's try!!



締め切り  
 5/8 (金)  
 必着

編集委員

- 高橋 藤 枝 (23 回生)
- 大熊 智恵美 (34 回生)
- 星野 ひろみ (37 回生)
- 石井 美奈子 (38 回生・会報編集部長)

年号表記の記載につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

「学びたい」「わかりたい」「試験勉強をきちんとしたい」という気持ちが伝わってきます。以前、夜間中学校がない地域で「主夜間中学校」という活動にかかわらせていただいた時も「学びたい」という強い思いが皆さんの中にもありました。

ひとつひとつ、丁寧にお答えくださり、ありがとうございました。今回は、「ブチ双方向」でした。